

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	那覇市こども発達支援センター		
○保護者評価実施期間	2026年2月9日 ~ 2026年2月20日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	2026年2月4日 ~ 2026年2月10日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 23名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	併行通園、預かり療育の実施	併行通園では、午前の活動に合わせて午後の活動バランスを配慮したり、就学に関する情報提供を行い、保護者が就学への見通しを持てるよう支援を行っている。 預かり療育では、就園に向けた母子分離の経験の保障と、保護者支援の充実を図っている。	今年度より併行通園を開始。希望者が増えていることもあり、子どもの年齢や発達の状況に合わせてクラス編成を行っている。 引き続き、預かり療育を実施していく。

2	職員の資質向上のため、研修を行っている。	新職員にはセンター専門職による研修を行っている。毎月の園内研修に加え、OB研修や外部講師を招いての研修等を行っている。また、現場研修として、他園や他施設の職員間の研修を行っている。	引き続き、研修を実施していく。
3	多職種による支援	保育士と各専門職（心理士、言語聴覚士、作業療法士）が評価し、計画書を作成している。全職員でもモニタリングを行い、子どもの姿や目標を共有し、支援に繋げている。	引き続き、多職種で連携しながら支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	他園との交流活動の情報発信	隣接の保育園と交流活動を実施し、園児をセンターへ招いた交流もあったが、一部のクラスでの実施だったため、交流活動の様子が保護者へ伝わりにくかった。	実施内容の再検討と、情報発信の工夫を行う。
2	職員間の事業内容の共有が不十分。	通園、相談、訓練の各グループそれぞれ複数の事業を並行して行っており、事業内容を共有する機会が少ないため。	事業内容を共有する場を設ける。
3			